第7回「日中未来創発フォーラム」(北京) 参加報告レポート

お茶の水女子大学
生活科学部3年
尾崎そよか

1. 初めに

2025年5月10-11日に開催された、笹川平和財団・中国人民大学主催の日中未来創発フォーラムに参加させていただき、9日から12日の計4日間、北京に滞在した。これまで中華圏のいくつかの地域は訪れたことがあったものの、北京は訪れたことがなく初めての北京滞在であったため、目に映る全てのもものが新鮮であった。2日間のフォーラムでは、中国人学生や日本人の留学生たちといった、自分とはバックグラウンドが異なる多くの方々と交流する機会があり、刺激を受けた。フォーラムで感じたことを以下に詳述する。

2. 参加しての感想

(1)参加前と参加後の変化について

私は昨年東京にて開催された日中未来創発フォーラムにも参加したのだが、その際日中に関心のある多くの学生と交流し友人を得たことで、中国に更に興味を持った。この経験から、国家間の友好関係の構築・継続には、個々人が実際に会って交流しお互いを知ることが不可欠だと考えるに至ったが、今回のフォーラムでもやはり、更にそのことを実感した。

改めて実感した理由は、個人的なことではあるが今回のフォーラムにて、昨年の東京フォーラムで知り合い仲良くなった人民大学の友人と再会したためである。東京フォーラム以降 WeChat で連絡を取り合っていたが、やはり実際に会えるとなると連絡の頻度が増し、再会できたことでお互いの友情を再確認することができた。彼女とは、今回はプライベートで再会することを計画している。このように、個々人が「その場限り」でない関係性を数多く築いていくことが、長い目で見たときの国家間の友好関係構築に繋がっていくと考えた。今回出会った友人達とも連絡を取り続け、いつの日か再会し、「その場限り」ではない関係を構築していきたい。

また、友好関係構築のためにお互いを知ることに関連して、今回のフォーラムをきっかけに中国の地方地域に更に興味が沸いた。学生たちと交流してどこの出身かという話題になった際に、北京以外の出身の方が多く、中には初めて聞く地域出身の方もいたためである。当たり前のことではあるが、中国は知名度が高い北京や上海といった都市出身の人だけで構成されているのではなく、他地域出身の方も数多くいる。しかし、沿岸地域の都市については馴染みがあっても、内陸に行くにつれ自分の知識が薄くなっていくことに気がついた。様々な地域について知っておくことはそうした地域出身の方と出

会って交流する際に大いに役立つだろう。有名都市だけでなく他の地域のことも少しずつ知っていききたい。

(2) フォーラム全体を通して感じたこと

フォーラム全体を通して思い出に残っていることは、大きく2つある。1つ目は、他学生の勤勉さについて、そして2つ目はグループワークについてである。

1つ目の勤勉さに関して、現地中国人学生との交流を通して、現地学生の勤勉さ、勉強へつぎ込むエネルギー量の違いを感じ、圧倒された。その理由は、交流した多くの中国人学生は同世代なのにも関わらず日本語が堪能で知識も豊富である場合が多く、グループワークのちょっとしたディスカッションでも助け舟を出してくれるなど、毎日の努力が窺えたからである。また、日本人留学生たちも、異国の地に馴染み、自分の目標に向かって前向きに努力する姿が逞しく、憧れの気持ちを抱いた。このように、各々学びの道を地道に切り開いている姿に刺激を受け、私も見習わねばと痛感した。

2つ目のグループワークに関して、今回のテーマ決め、調査、発表準備、発表は大変困難なものであったと同時に、どのような内容であれ、形になったということがそれぞれにとって大変意義ある経験になった。今回何よりも難しかった点は、テーマ決めから発表までの時間が3時間程度と大変短かったことである。メンバーそれぞれの興味関心が異なっていたためにテーマ決定の時点で難航したが、今回の最大の目的である「交流すること」を特に心掛け、皆で折り合いをつけながらテーマを探すことに努めた。調査する中で途中途中雲行きが怪しくなる場面もあったが、その分発表を終えることができた喜びもひとしおで、皆が協力して苦勞しながらも形にするという経験を共有できたことは、達成感と団結を生み、今後のそれぞれの活動に大きな影響を与える、大変良い機会となった。

3. 終わりに

フォーラムで集まった日中の学生たちはそのほとんどが見知らぬ人同士であったが、同じ日中に興味がある同世代の人たちということですぐに皆仲良くなり、始終和やかで楽しい雰囲気であった。チームや班でバスに乗り、引率されながら和気あいあいと活動するのは中高の修学旅行のようで、コロナウイルスの影響で修学旅行が無くなりがちであった世代の私たちにとって、その意味でも嬉しく、思い出に残った学生も多いと考える。充実した濃い思い出を一緒に作り、共有するという経験は、今後日中の関係構築にそれぞれの立場で貢献していくであろう学生たちにとって、改めて大きな芯となっただろう。私も、両国が良い関係を築き共に発展していくことの一助となれるような人材になるため、今回の思い出を胸に、努力を重ねていきたい。

今回、フォーラムを開催してくださった笹川平和財団と中国人民大学の皆さま、その他フォーラム開催にあたり尽力してくださった全ての方にこの場を借りて感謝申し上げるとともに、今回北京滞在という恵まれた貴重な機会を提供してくださった笹川平和財団の皆さまに、重ね重ね、心よりお礼申し上げます。